



まち育て人 通信

第 1 号

2013 年 2 月発行

はじめに

本号の内容

- 1 はじめに
- 2 青森県からの連絡事項
- 3 【特集】「横町十文字まちそだて会」の取組（黒石市）
- 4 その他県内各地の取組
- 5 編集後記

昨年度までまち育て人の皆様の情報交換の場として開催していた青森まち育て人連絡会に変わり、今年度からニュースレター形式でまち育て人の皆様に情報提供させて頂くことになりました。

今回は初めての試みということもあり、主に青森県からまち育て人の皆様への情報提供がメインとなりますが、本号に掲載された取組が今後の皆様の活動の一助となれば幸いです。

青森県からの連絡事項

“景観フォーラム”

青森県では景観への理解と関心を深めて頂く機会として、緑が最も美しい時期である6月1日を景観の日として定めています。景観の日に合わせた景観啓蒙活動の一環として景観フォーラムを開催しております。

青森県は昨年も6月1日に景観フォーラムを開催しました。大阪大学大学院小浦久子准教授より「風景にみる地域の歴史と文化」と題した基調講演を頂くとともに、優れたまちなみ景観保全に対する取組への表彰として、「八戸市庁前広場と周辺地」の保全取組について、八戸市及び個人1名を表彰しました。

今年も6月3日（月）にアピオあおもり（青森市）において開催する予定となっております。参加は無料でどなたでも参加できます。皆さまのご参加、お待ちしております。フォーラムの内容等詳細につきましては、決定次第、県都市計画課のホームページに掲載しますのでご確認下さい。

【県都市計画課ホームページ：景観の日・景観フォーラム】

URL: <http://www.pref.aomori.lg.jp/life/keikan/keikan-forum.html>



平成 24 年度景観フォーラムの様子

【特集】「横町十文字まちそだて会」 (黒石市) の取組紹介

青森県では、平成 23 年度、アメリカで行われているまちづくりの手法の一つである「メインストリートプログラム」の日本版である、専門の講師が地域に入り一緒に現場で実体験しながらまちづくりの指揮を執る「通り再生マネージャー」を育成する「通り再生プログラム」の勉強会を黒石市において実施しました。平成 24 年度は黒石市・黒石商工会議所・商店街振興組合の援助を受け勉強会を進めてきたところですが、平成 24 年 7 月 12 日に、黒石市で商売を営んでいる 11 名によりまちそだて団体「横町十文字まちそだて会」が設立されました。今後、様々なまち育て施策を講じていくこととしています。

“メインストリートプログラム”

アメリカで生まれたまちなみ再生手法のひとつで、「通り」に関わる組織運営・デザイン向上・イベント実行等をバランス良く進めることで、沿道の経済水準向上を目指します。

「横町十文字まちそだて会」が目指す黒石の将来像

→「歩いて回れるくつろげる街」

将来像を達成するための横町十文字まちそだて会の戦略（作戦）は・・・

横町十文字エリアに「第3の場」をつくる！

○「第1の場」は自宅を、「第2の場」は仕事先や学校を指す。私たちの日常は、第1と第2の往復が基本的な生活パターンである。しかし、ヒトの生活にはその間でホッとくつろげる場、あずましい場、文化と出会える場など「心のスイッチを切り替えられる非日常の時間と空間」が必要である。その「非日常の時間と空間を共感することができる場」こそが、私たちの考える「第3の場」である。

○そこで、私たち「横町十文字まちそだて会」は、横町十文字エリアを「第3の場」としてつくり変えるため、エリアのビジョン（将来像）である「歩いて回れるくつろげる街」を基本としたまちそだて策をひとつずつ積み重ねて実行していく。

○私たちのまちそだて戦略（作戦）は、横町十文字エリアに「第3の場」をつくることであり、その利用者は「弘前市を含む近隣市町村にすむ居住者に加え、交流人口と呼ばれる観光客」とする。

この将来像を基本としたまちそだて策の一つとして、2012年度はこの地域の滞在時間を1時間延ばすことを目標に、「黒石・食と文化のものがたり」と題して、2つの社会実験を行いました。

社会実験その1：横町商店街を「骨董通り」として再生する

1) 横町商店街を「骨董通り」として再生する可能性を探るため、10～20店の骨董店に依頼し、交代で空き店舗を活用して営業してもらう

期間：平成25年1月12日（土）～2月11日（日） 10:00～16:00

社会実験その2：こみせ駅で15時から夕市を開催する

1) おいしい食材の提供、普段手に入りにくいこだわりの食材の販売

2) 姉妹都市である宮古市の震災復興支援型アンテナショップ「(仮)宮古復興支援物産プラザ」を開設する

3) 黒石のおいしい米とりんごの販売促進として、売り方を工夫し加工したもの等を試食してもらいながら、おいしさを説明して販売する

期間：平成25年1月25日（金）～27日（日）

この会の取組内容に関しては、来年度以降も引き続き皆様に報告していきます。

また「横町十文字まちそだて会」は Facebook 上でも今後のイベント情報等について情報発信を行っております。興味のある方は是非ご覧下さい。

その他県内各地の取組

むつ市

むつ市においても、同様の住民主体のまちづくり団体「田名部まちなか再生協議会」が誕生しています。

協議会設立の趣旨

むつ市中心市街地である田名部まちなかエリアを再生するため、官民が連携できる組織として平成24年7月に設立されました。今後予定されている中心市街地活性化にかかる事業の実施においてイニシアチブをとる組織の一つになります。



黒石うまいもの市の様子



骨董通りの賑わいの様子



弘前大学住環境研究室の学生もお手伝いに来てくれました

協議会メンバーについて

商店街振興組合、商工会議所、民生委員協議会、青年会議所、NPO、エリア内の町内会長、個人、市役所職員計 24 名が参加しています。

協議会の活動概要

協議会の下部組織として 4 つの分科会（地域活性化検討分科会・公共施設検討分科会・居住施設検討分科会・街並み・景観検討分科会）とエリアマネジメント支援会議を設置しています。

分科会は、まちなかの再生案を検討する組織であり、協議会に対して検討内容の説明、報告、提案を行い、地区住民、地権者、まちづくり活動に積極的な市民で構成されています。

エリアマネジメント支援会議は、内容が多岐にわたる協議会活動計画の審議や分科会での事業手法の検討や事業計画を立案する場であり、分科会参加者が将来的にエリアマネジメントの担い手となれるための支援など様々な場面での協議会の活動を支援する会議となります。

具体的な取組は来年度以降になりますので、来年度以降も引き続き情報提供させていただきます。

五所川原市

五所川原市においては、昨年度五所川原市において開催された五所川原市内のまち育て人勉強会により認定されたまち育て人のうち、5 名の方が五所川原市都市計画マスタープラン策定過程において、住民主体のワークショップに参加しております。

"都市計画マスタープラン"
市町村がこれからのまちづくりの方向を示すために定めるまちづくりの方針のことを指します。

編集後記

今後、まち育て人の皆様から、他のまち育て人の皆様に提供したい情報・取組等がある場合、下記担当までお知らせ下さるようお願いいたします。今後も皆様からも情報を得ながら、より一層の紙面の充実を図りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まち育て人の皆様の今後一層のご活躍を祈念しております。

発行：青森県県土整備部都市計画課 都市計画・景観グループ

〒030-8570 青森県青森市長島一丁目 1-1

電話番号：

017-734-9681

FAX 番号：

017-734-8196

電子メール：

toshikei@pref.aomori.lg.jp